

『若い躍動が郷土と旭川会を元気に!』

Vol.39

第42回東京旭川会総会・懇親会のご報告

2018年10月27日（土）午後5時より、ハイアット・リージェンシー東京で開催されました。出席者は会員121名、来賓・協賛関係16名、合計137名でした。



▲笠木旭川市議会議長の発声による乾杯(旭川の地酒 男山・高砂・大雪)で第42回の懇親会がスタートしました。毎回工夫を凝らす懇親会。若い人の参加もあって今回は以前にも増して積極的な交流があったように思います。この熱気を次回にも、次の代にもつなげて行きたいと思います。

引き続き『旭川の現実(いま)をもっと知る』というテーマでパネルディスカッションを実施しました。パネリストは、表憲章旭川副市長、(株)エフ・イー代表取締役社長 佐々木通彦さん、星野リゾートOMO7旭川総支配人 日生下和夫さん、旭川信用金庫理事長 原田直彦さんで、旭川の現状と将来について思いを語っていただきました。続いて旭川青年会議所 石田一貫さんから「旭川

の現実(いま)をもっと知る」というテーマでパネルディスカッションを実施しました。パネリストは、表憲章旭川副市長、(株)エフ・イー代表取締役社長 佐々木通彦さん、星野リゾートOMO7旭川総支配人 日生下和夫さん、旭川信用金庫理事長 原田直彦さんで、旭川の現状と将来について思いを語っていただきました。続いて旭川青年会議所 石田一貫さんから「旭川

の現実(いま)をもっと知る」というテーマでパネルディスカッションを実施しました。パネリストは、表憲章旭川副市長、(株)エフ・イー代表取締役社長 佐々木通彦さん、星野リゾートOMO7旭川総支配人 日生下和夫さん、旭川信用金庫理事長 原田直彦さんで、旭川の現状と将来について思いを語っていただきました。続いて旭川青年会議所 石田一貫さんから「旭川

の現実(いま)をもっと知る」というテーマでパネルディスカッションを実施しました。パネリストは、表憲章旭川副市長、(株)エフ・イー代表取締役社長 佐々木通彦さん、星野リゾートOMO7旭川総支配人 日生下和夫さん、旭川信用金庫理事長 原田直彦さんで、旭川の現状と将来について思いを語っていただきました。続いて旭川青年会議所 石田一貫さんから「旭川

の現実(いま)をもっと知る」というテーマでパネルディスカッションを実施しました。パネリストは、表憲章旭川副市長、(株)エフ・イー代表取締役社長 佐々木通彦さん、星野リゾートOMO7旭川総支配人 日生下和夫さん、旭川信用金庫理事長 原田直彦さんで、旭川の現状と将来について思いを語っていただきました。続いて旭川青年会議所 石田一貫さんから「旭川

の現実(いま)をもっと知る」というテーマでパネルディスカッションを実施しました。パネリストは、表憲章旭川副市長、(株)エフ・イー代表取締役社長 佐々木通彦さん、星野リゾートOMO7旭川総支配人 日生下和夫さん、旭川信用金庫理事長 原田直彦さんで、旭川の現状と将来について思いを語っていただきました。続いて旭川青年会議所 石田一貫さんから「旭川



第39号：平成31年（2019）3月29日発行
発行：東京旭川会 〒359-0041
埼玉県所沢市中新井4-24-3
(高木宏明)
TEL/FAX：042-942-8455
e-mail：asahikawakai_tokyo@yahoo.co.jp
編集：東京旭川会広報チーム

※【予告】本年度第43回の総会・懇親会は、10月26日(土)午後5時からの予定です。



〈会長挨拶〉
東京旭川会会長
加藤佳子

昨年の総会で会長として皆さまの信任を受け、責任の重さをいっしと感じているところでございます。第六代目の会長をお引き受けした時から掲げている旭川会における三つの使命について申し上げます。その一つ目は、世代を超えて愛される旭川会を目指すことです。若い世代の方が参加しやすいように、発

表の場をつくり、活動をアピールして貰うなど、世代を超えた交流を深める場を提供していくことです。二つ目は、「私たちの旭川会」と会員の皆様に感じていただける総会運営をすることです。前回の総会では、懇親会に先立ち「故郷旭川の現実(いま)をもっともっと知る」とのテーマでパネルディスカッションを行いました。旭川で活躍されている方のお話を伺う貴重な機会を通して旭川のいま(現実)を知り、ふるさとの応援団としてエールを送り続けたい

と考えています。三つ目は「東京旭川会」の次世代への継承を進めることです。およそ30年に渡って会の歩みに関わって感じることは、「ふるさと」は遠きにおいて想うもの「の時代」から今は距離的にはとても近くなりました。その分、関係性が希薄になるくらいがあるのではないかと思います。今一度ふるさとへの想いを皆様と分かち合うことを大切にして、続けて参りたいものと努力します。皆様のご指導ご鞭撻をお願いします。

市の移住促進の取組について説明して頂きました。

懇親会では、旭川市議会 笠木議長はじめ、旭川商工会議所、旭川観光大使の皆さん、協賛企業来賓の皆様を含めて137名の方々の参加を得ました。

昨年に引き続き、若い方が参加しやすいように40歳未満の方の懇親会費を半額にするなど工夫をしました。「私(達)こんな活動をしています。」コーナーでは壇上から5組の方々と西高東京同窓会の事務局長小林信雄さんが発表しました。(詳しくは3頁をご参照)

壁新聞では、旭川の話題と当会の活動報告に続き多くの旭川出身者の活動も報告されました。

その後、恒例の大抽選会など大いに楽しんでいただき盛況の内に終了することができました。

次回も引き続き多くの皆さまの参加をお待ちします。

第42回総会・懇親会

郷土を想い、様々な交流が！

いつもの顔に、いま躍動中の顔。
そして初参加の顔、顔、顔。総会・懇親会は昨年に続き、新しい息吹を感じることができました。東京旭川会は世代を超えた交流を目指します。



▲表憲章旭川副市長



▲笠木かおる旭川市議会議長



▲私野和彦旭川商工会議所副会頭



▲新入会・初参加のみなさんが紹介されました



▲旭川観光大使の北の富士さんとTVでおなじみの岩田公雄さんと記念撮影



▲旭山動物園の北極グマのぬいぐるみをはじめ賞品の数々



▲抽選札を引く表さんと司会者の三井さん



▲ホテル自慢の美味しい料理



▲ハイアットリージェンシーホテルの薄尾支配人からペアディナー招待券をお渡し頂く



▲当選者岡村さんに旭川のラーメン、お菓子、工芸品などが沢山入ったふるさと便をお渡しする大場さんと佐藤さん



▲毎年恒例の旭川ラーメンのコーナー 皆さん、懐かしい味に行列



▲皆さんにお持ち帰り頂いたお土産



▲お開きで別れを惜しむ参加者の皆さん



▲立ち飲みコーナーで歓談

私(達)こんな活動をしています!

前回の41回から始まったこのコーナー。今回は前回の4組から1組増えて、以下の5組の方々に活動発表をお願いしました。参加の多くの方が元気を頂けたのだと思います。

●武藤大輔・亮太さん兄弟

(ミュージシャン)

兄の大輔さんは、ジャズドラマーの小山太郎氏に師事後、作曲家、自主レーベル運営活動を行いながら、バンドやシンガーソングライターとしても活動。プロデュースするユニット「NEOROMANCIA(ネオロマンシア)」では、現在までに音楽ストーリーミングメディアでの再生数は100万再生を突破。現在では、ドラムボーカルバンド「D-CLACX(ディークラックス)」で活動し自主映画なども監督する活動もしている。



弟の亮太さんは、ベーシストとして定評のあるフィンガーベースプレイを披露している。自主映画「スイートシンギュラティ」では、役者としても登場する。2018年11月には、冬の旭川をロケ地とした2045年の人工知能社会を舞台に

した自主映画「スイートシンギュラティ」を上映公開した。

●浅井未歩さん

(シンガーソングライター)



旭川市出身。旭川美少女図鑑のオーディションでグランプリを獲得。これまでに道内企業のTVCタイアップとなった曲をリリースしCMには本人も出演している。

2015年には札幌でワンマンライブを大成功させるほか、道内の各種イベントへの出演多数。HBCテレビで放送されている地元旭川の魅力を伝える情報番組ではレポーターとしても活躍している。

2018年3月にNEW SINGLE「いのちの声」をリリース。札幌と旭川で開催したリリースライブは2公演がソールドアウト。大盛況となる。

また弟が知的障害を持っていることから、自閉症啓発イベントや特別支援学校などでの活動にも力を入れている。

日常で沸き起る様々な感情をもとに、聴く人の心の解放をテーマに北海道・関東を中心にライブ活動を展開している。

●長谷川幸恵さん(手書き代筆)

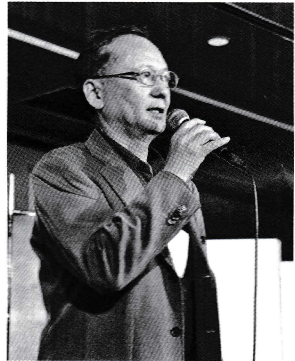


旭川市出身で手紙代筆屋を運営している。6歳から書道を習い、小学校のころは様々な賞を受賞した。道立旭川工業高校の建築科に入学後、クラーク記念国際高等学校へ編入。18歳で東京に上京。ベンチャー企業や大手製薬会社、出版社などの勤務を経て、会社員時代に築いたスキルよりも自分の好きなことを仕事にという想いと一人でも生きていけるようにと思い、手書き屋を設立した。元々手紙、手書きが好きで大切な気持ちを伝えるときには手紙を利用してきたという。

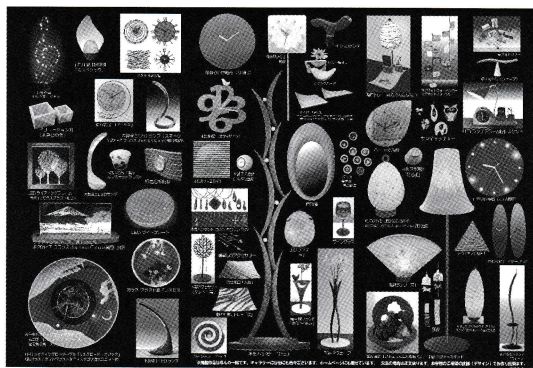
現在は3歳の男の子のシングルマザーとしても奮闘している。

●松田広昭さん(芸家)

旭川西高20期。1971年、専門学校をへてデザイン事務所に入所。38年にわたりインダストリアルデザインに携わった後、2010年ハケ岳南麓に、「デザイン工房 昴」を開



設し活躍しています。毎年、東京と故郷旭川にて個展開催している。



▶独自のデザインの数々
デザイン工房 昴のパフレットより

●本田蒼風さん(書家)

旭川教育大学の書道研究室で中国書道史・日本書道史などを学んだ。現在は主に東京を拠点として大筆を使用するパフォーマンス書道や筆文字デザインなどで活躍している。

その作風に共感する高砂酒造や小田急電鉄など内外の企業・団体からオファーを受けて公演やロゴデザイン制作している。本年2月からマレーシアに滞在し創作活動している。

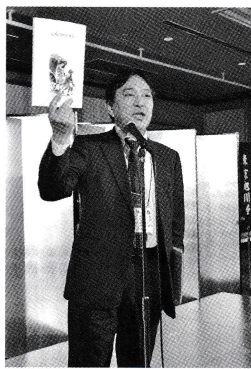


旭川の大吟醸酒
「旭神威のロゴ」

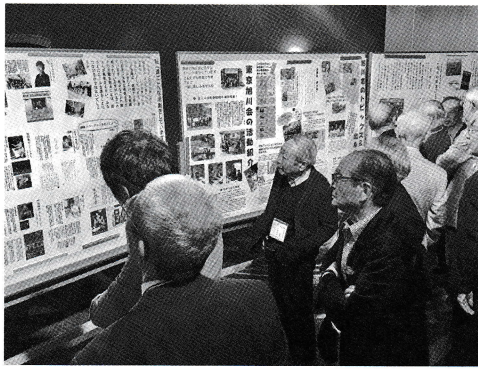
東京旭川会

◀本田蒼風さんに書いて頂いた東京旭川会の題字

●引き続き、旭川西高東京同窓会の事務局長小林信雄さんが、西高通信に連載した大内秀夫さんのエッセイ集「記憶の中の旭川」を紹介しました。

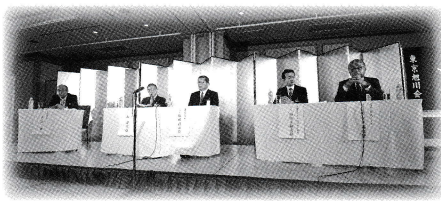


●会場の壁新聞では、三好のぶちかさん、井上賢さん、朝妻久美さん、安田里沙さん、西本夏生さん、米澤美玖さん、瀬川あやかさん、門馬瑠依さん、笠井崇正選手、あさひのぼるさん(漫談家)を紹介しました。



パネリスト
ディスカッション

『旭川の現実(いま)をもっと知る』



「旭川の現在を知る」というテーマで今回は3回目の集大成となります。ディスカッションを通じて、市では企業誘致に注力していることを知り、

1・2回で参加したサイバートラスト社、アクサダイレクト社などが東京から旭川に進出していることを、また旭川の企業、梅光軒、ササキ工業、今回のエフイー社などが海外に進出し頑張っていることを知りました。今回は、西川市長は選挙の為、表副市長にご参加いただきました。

旭川の中心に位置する旭川の会社が日本の大型農業のスタンダードとして評価されています。

はじめに

司会(荒川副会長)・・

それでは、早速、始めます。



佐々木・・私は根菜類の洗浄・選別機械の会社を営んでいます。今、スーパーに行くとニンジンやダイコンに土の付いたものを売っていますか？これは見た目じゃないのです。昭和50年代の後半ごろからスーパーに泥の付いた根物野菜が無くなってきました。これは環境負荷の問題です。北海道の土がついた大根が東京に来ると川や海はどうなるか？川や海はヘドロが溜まってしまふ。それで野菜は洗って流

通しようということになりました。私共は、例えば「JAようてい」向けに一日280トンの大根を洗う大型設備を受注しています。

小泉総理大臣の頃、小規模農業は組合などを結成し大型化して、そこから直接補助金を出す政策になりました。これを機会に私共は「全国区」になりました。今では、北海道で生産していないショウガやサツマイモなどの洗浄機も、北海道で培った技術で全国に製造販売しています。韓国・中国・台湾、そしてASEANの国々に輸出をするようになりました。

北海道の中心に位置する旭川の会社が日本の大型農業のスタンダードとして評価されています。

司会・・有難うございます。今話題のOMO7の日生下さん如何ですか？

日生下・・全国に48名しかいない名前です。兵庫県城崎温泉生まれです。

旭川のメリットは、やはり北海道第二の都市、大きな地方都市ということ。観光では、旭山動物園という人気施設があり、そして美瑛・富良野が近くにあり。更に北海道という一つの観光地にあることです。

司会・・有難うございました。

原田・・旭川の良いところは、旭川市が中核都市として、道北地区、オホーツク地区への玄関口にあることです。



もう一つ加えると、善意の人が多く心地よく暮らせる土地柄で、気持ちよく生きて行ける場所だと思います。



司会・・表さんは如何でしょうか？

表・・旭川の良さを色々お話しただき有難うございます。

旭川は、北海道の扇の要に位置しています。人口は、今は33万9千人です。若い人が出て行って、旭川の北の高齢者層が入ってくるという都市構造になっています。旭川を如何に積極的に外に出してゆか？政策的にアレンジしないと旭川が良くなっていかないと感じています。

旭川の良いたころ

司会・・旭川の特徴はご理解いただけたと思います。ここが旭川の良いたころといえるポイントを三つぐらいあげるとしたら何ですか？

日生下・・三つのポイントは

①人の繋がり、人の温かさ

②町としてのバランス、近き、何処にもない「自然」にすぐ行けるということ

③食べ物美味しいということ。今、旭川を立ち上げるにあたってこの「人の繋がり」とか「人の温かさ」をすごく感じました。旭川大学の方々に協力いただき、お客様を街の中に案内していると、いつも出会っている近所の仲間として迎え入れてくれました。本気で人の温かさを感じます。街の中ですっかりとコミュニティがあるのは旭川の特徴です。私は「よそ者」ですが、とても親身になっていろいろ相談に乗って頂きました。

司会・・ありがとうございます。

原田・・三つのポイントは、

①災害が少ないこと

②自然と都市機能が両方あること

③旭川では、安く美味しいものが食べられる。

もう一つ「人」というテーマですが、私も旭川信用金庫はお取引がある町「2市10町1村」と「連携協定」を結び、旭川市だけではなくて諸々の会議所等を含めた連携ができています。連携する上ではリーダーのパワーアップがより必要です。特に旭川がリーダーで頑張ると旭川の良さがもっと活かせると思います。

司会・・有難うございます。

佐々木・・

①「旭川の人間は心優しく思いやりがある」昨年、旭川の「北海道ベトナム交流協会」を立ち上げた時点で60社でしたが、現在は90社になりました。

②食べ物美味しい。旭川は北海道の中心に位置し新鮮な魚が集まってくる。農産品も一緒です。もっと旭川のアピールの仕方があっていいんじゃないか！それには、中央で活躍されている皆さんの一言が大きいです。

③災害が非常に少ない。私の会社は静岡の会社と「BCP契約」を結んでいます。災害が少ない町のモノづくりの会社が「メーカーの保証」なのです。旭川には、機械の高い技術力があります。是非、皆さんからモノ作りをやっているお知り合いに「旭川とBCP契約を結んでください。旭川に受け皿がありますよ。」と言って頂きたい。

司会・・具体的なお話、有難うございます。次は、改善ポイントをお願いいたします。

原田・・「旭川は頑張っているよね」という声をもう少し聞けるようになったらいい。

「旭川での販売は難しい」という方が多いです。旭川は、一つの方向を決めて盛り上げて頑張る町になると良いと思います。

信用金庫は、最近「地域をどう活性化していくか？元気づけられるか？」が仕事の中心になってきていま

旭川の改善点

パネリストのご紹介

佐々木通彦(ささき・みちひこ)さん

(株)エフ・イー 代表取締役社長

1955年旭川市生まれ、1978年金沢工業大学卒業後農業機械の設計会社に就職。28歳の時に父の経営の合板プレス機械の製造会社に転職したが、貿易自由化の影響で合板は東南アジアの安価な製品に押され、国内の合板製造会社は倒産を余儀なくされていた。父の会社もそのおろしを受け、経営がうまくいかず多額の借金を抱えていた。前職で得た機械設計の経験と知識を活かし、農業機械の製造会社に転換した。現在では根菜類の洗浄選別機を中心に、国内をはじめアジア各国への輸出も行っている。近年は野菜の加工機械の開発製造も手がけ、新しい市場への販路も拡大している。また、旭川機械金属工業振興会会長や旭川高専振興会会長なども務め、地域の業界発展に寄与している。

日生下和夫(ひげ・かずお)さん

星野リゾートOMO7 旭川総支配人

1973年兵庫県生まれ。実家は老舗の温泉旅館。近畿大学卒業後、公認会計事務所、国内外ホテルチェーン勤務を経て、2007年に星野リゾートに入社。島根、高知、静岡、栃木など全国のホテル・旅館5カ所の総支配人を歴任し、2017年4月に旭川グランドホテル総支配人に着任した。

翌2018年4月28日に星野リゾート4つ目のブランドOMO(おも)の第1号案件、『星野リゾートOMO7(おもせぶん)旭川』としてリニューアルオープンした。『寝るだけでは終わらない、旅のエンタテインメントをあげる都市観光ホテル』として、ホテル周辺のディープなエリアを紹介する『GO-KIN-JYO(ごきんじょう)マップ』や旅先の友人ガイド『OMOレン

す。まず我々市民が「旭川は良いところだ」という誇りを持つことが必要です。それを皆様方、東京の方が、特に声を大きくして周りの人に言って頂きたい。

もう一つは「楽しいことが旭川にはあり、是非、旭川に来てやってみたい。」と「自分自身の生活は楽しく有意義だよ」と周りに伝えられるような町になればと思います。

司会：有難うございます。

佐々木：旭川市は、もっと長期的なビジョンを明確にし、そこに道標を立て「まちづくり」をしていくべきで、もっと強いリーダーシップで牽引して欲しい。

国際化が遅れています。昨日、旭川にいられた石垣市長から「旭川は飛行機の便数が一日10便。石垣は人口4万人位しかないのに、34便飛んでいるよ」と言われた。旭川から外に発信するには、交通インフラは大切だが、今国際線のビルを建てているけれど、その前にするべきことがあるのではないかな？せめて成田便が直接あればいいと思います。旭川から早い時間の便があれば、アクセスが良いのと感じます。

もう一つ、旭川からの輸出梱包は、問題です。一回、機械を裸で苦小牧まで



▲エフ・イー製大根洗浄機は葉付き大根の葉を傷めることなく実にきれいに洗浄できる画期的な大根洗浄機です。

でもって行って、苦小牧で下し、燻蒸材を使って梱包し苦小牧からフェリーに載せる。結局、そういう事で国際化を目指していく中で、やはり一手間二

手間かかり過ていると感じます。

それともう一つ、「着る物」。札幌に「大丸デパート」の外商が旭川に常駐し結構売り上げを伸ばしています。是非とも旭川のランドマークとなるデパートが欲しい。

司会：ハイ、有難うございます。ずっと外を回ってこられた日生下さん如何ですか？

日生下：今はもう住んで二年経つので言い難いですが、続けて観光の立場からお話します。

外からいられた人が魅力的に思っただけには、やはり旭川ブランドだと思えます。先ず認知。「もう一度行ってみたい」というリピーターロイヤリティに重なる。たの通過型観光だと町の魅力を伝えるチャンスがあります。

これは定住や移住にも繋がります。ブランドに対してシッカリと市が認知を高めるような検討をして頂くホテルに恩恵があります。

もう一つが、「通過型から拠点型」に観光の流れが変わってきています。



▲OMO7の変幻自在なロビーやラウンジは、遊び心あふれる特別な場所。多彩な楽しみ方と集いのかたちは思わずシェアしたくなる空間です。

都市に泊まってその街のディープな食を楽しむことが、旭川でも行われることが大切です。そうすれば、北海道の観光の拠点として旭川を選んで頂けます。是非、よろしく願います。

司会：有難うございます。ここは表さん、宜しく願います。

表：指摘されたことは充分理解しています。ただし、行政は、先ず町の全体の市民が安全で安心して暮らしていけ

ることを基本にしなければいけません。それから道北の町々に対しても「まちづくり」として責任を負って行かねばならないことが一方ではあります。

それから生活保護世帯の方々が、大体1万3千人、1万世帯前後、旭川にいます。そういった人たちを抱えながら、言われたことは、やって行かねばならない。両方抱えてやっています。

それで、一つだけ兆しを申し上げると、旭川は春夏秋冬がハッキリしていて、雪が降るといって、逆に冬で寒くて、というところを逆手に取った企業が進出してきています。セブンイレブンで一番サラダを売っている会社が進出してきています。このようなことが、ここ4～5年で徐々に体制を整えてきています。

それから、観光については、観光振興機構という大きな北海道の組織ができて、その旭川版ができました。スキー場を連携しようという視点で道北の総元締め旭川がなり頑張ろうとしています。お三方が言われたことは、全てそのとおりと認識しています。

旭川未来会議



▲旭川市の周辺にはカムイスキーリンクスや旭岳、星野リゾートトマムなど多くのスキー場が。

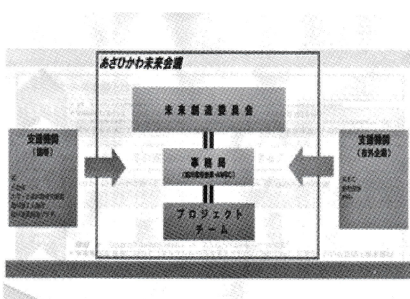
司会：有難うございます。市民一体となって町の発展に頑張ってください。今後とも宜しく願ひ申し上げます。もう一つのお話として、ここ1～2年前で「旭川未来会議」が発足したと聞きました。

原田：これは公的なモノではなくて旭川信用金庫中心に旭川のことを真剣に考え行動に移していこうという目的で2017年5月に設立しました。メンバーは、12の民間企業、業種は全部バラバラでうるさい社長を集めました。その中に、今日いらしているエフイーの佐々木さんとササキ工芸の佐々木社長もいらしています。それに「学」ということで旭川ウィルビーイングコンソーシアムという組織。旭川医大とか旭川大学とか教育大学、高専といったところが加盟している組織です。

旭川信用金庫と旭川ウィルビーイングコンソーシアムが事務局になって12



▲あさひかわ未来会議の風景



▲「あさひかわ未来会議」資料抜粋

の企業の経営者の方たちが中心になってスタートしました。テーマは、先ず「産・学・金」という民間が何を考え

ジャー」など新しい取組みに挑戦している。

趣味は旅行とまち歩き。現在は新しい旭川の魅力を発掘中。

原田直彦(はらだ・なおひこ)さん
旭川信用金庫 理事長

1956年『でんすけすい』の産地、上川郡当麻町生まれ。旭川東高を経て立教大学法学部卒業。末っ子で長男であったため地元に戻り就職しようとして、姉と入れ替わり、旭川信金に入庫した。入庫後は営業畑を歩み、3店舗の支店長を経て、理事となる。本店長を経験した後、2013年6月理事長に就任。翌2014年が創立百周年という大きな節目の年だった。

お客様とより密着し、金融以外のことにも積極的にコンサルのできる職員の養成と、支援体制の構築に取り組んでいる。

趣味は小学校5年から始めたソフトテニス。現在、旭川ソフトテニス連盟会長。

表 憲章(おもて・のりあき)さん
旭川市副市長

1948年旭川市生まれ。旭川東高を経て名城大学法学部卒業後、1973年旭川市役所に入る。社会福祉事務所などを経て企画調査課長、企画財政部長などを歴任した。総合政策部長を経て2008年旭川市副市長に就任。2016年12月から3期目の副市長に就任した。

【お願い】

実際の皆さんのご発言は、ウィットに富んだ楽しいモノで略させて頂いたことをご了承下さい。

三浦綾子記念文学館が 開館20周年を迎え、北海道遺産 にも選定される

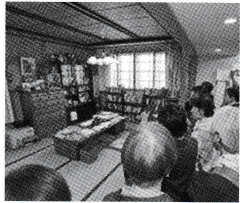
三浦綾子記念文学館が、昨年開館20周年を迎え、数々の記念事業が行なわれました。その一つとして、昨年9月29日に三浦綾子さんの自宅書斎を移設した分館がオープンし、道内外から多くのファンの方が続々と訪れました。

綾子さんが口頭で文章を語り、夫の光世さんが書き取る「口述筆記」の書斎として有名です。また文学館では分館の開館に合わせ、より臨場感をもって文学館を楽しめるように専用のアプリをスマートフォンに入ると動画が映し出されたりする機能も導入しています。

さらに昨年11月にはNPO法人北海道遺産協議会が北海道命名150年を記念して行なった第三回選定にて三浦綾子記念文学館及び外国樹種見本林が北海道遺産に選定されました。旭川家具も同時に選定されています。



▲完成した三浦綾子記念文学館分館の外観。木造平屋建130平方メートルの建物で、本館とは屋根付きの通路でつながっています。



▲分館内に移設された書斎に見る見学者。12畳の和室で本棚や机など当時のままを忠実に再現。展示室にはこの他生原稿や創作ノートなど約20点が常時展示されています。

旭川東高校 音楽部 合唱全国大会でダブル受賞！

創部90年以上の伝統ある合唱団、旭川東高音楽部(33人)が昨年10月、合唱の二大コンクールとされるNHK全国学校音楽コンクール(Nコン)と全日本合唱コンクール全国大会にダブル出場し、それぞれ銅賞、銀賞に輝きダブル受賞という快挙を成し遂げました。おめでとうございます。



▲Nコンは12年ぶり、全日本は18年ぶりの全国出場。2年前から指揮や伴奏も生徒が務め、練習も運営も生徒が主体となって進めてきました。和気藹々とした練習の中で育まれた、積極的で自由な音楽を全国の舞台でも響かせました。

旭川大学高校 野球部 夏の甲子園出場も惜敗

北海道代表として全国で一番の名乗りを上げ、大会2日目に長野県代表佐久長聖高校と対戦。8回表に逆転されたものの、旭川大高は粘りを見せ9回裏に一点をかえし同点に。延長12回終了時点で4対4で決着が付かず、甲子園で初のタイブレークに突入しました。残念ながら延長13回戦でも敗戦しましたが、見事な戦いぶりで甲子園に新風を吹き込みました。

旭川実業高校 サッカー部 全国高校サッカー選手権で惜敗

年末年始に行なわれる全国大会に三年連続七度目の出場を果たしましたが二回戦で帝京長岡(新潟県)に惜敗。大会史上最多の19人目までもつれ込んだ歴史的なPK戦の末、あと一步及びませんでした。

映画監督 白石和彌さんの 作品が次々公開されています



▲白石和彌監督。
映画.comホームページから引用。

校の出身の映画監督白石和彌さんがメガホンを取り、音尾さん出演した映画「孤狼の血」や「止められないか、俺たちを」が昨年公開されました。また香取慎吾さんが主演で白石監督と初タッグを組んだ宮城県石巻市が舞台の「喪失と再生をテーマに掲げた重厚な人間ドラマ「風待ち」や「麻雀放浪記2020」が今年公開予定となっています。1月にはブルーリボン賞監督賞を2年連続で受賞。ますますの活躍に注目です。

俳優・監督で注目を集めている 品田誠さんは旭川市出身です

1992年生まれ。旭川実業高校卒業後、道内の大学に入学しますが俳優になるため中退し上京。2013年俳優デビュー。現在、俳優や監督として活動中です。昨年の7月、8月に池袋シネマロサの今後の活躍が楽しみな俳優にスポットを当てる企画「The face」で記念すべき初回に「品田誠特集」が組まれ出演・監督作品が上映されました。また札幌、旭川でも特集上映会「品田誠映画祭」が開かれるなど注目を集めています。



▲映画「恋愛依存症の女」(2018年)のひとこま。
映画.comホームページから引用。

今後の活躍が大いに期待されます。

東京旭川会の活動を報告します

東京旭川会では会員相互の懇親を深めることを目的に様々な活動を行っています。皆様の参加をお待ちしています。お問い合わせは事務局までお願いします。

●第29回郷土訪問の旅を実施しました

昨年6月14日10時半に旭川駅前に参加者12名が集合。旭川市職員の方とともにバスに乗り、まずは三浦綾子記念文学館を訪問。

その後、一昨年の総会でパネルディスカッションにご登壇いただいた高橋仁美さんが女将を勤める扇松園にて西川市長はじめ旭川市の方々と昼食会。昼食後は井上靖記念館、一昨年の第41回総会でパネルディスカッションにご登壇いただいた佐々木社長経営のササキ工芸を訪問。夜には旭川市関係者との懇親会で充実した故郷訪問の旅は終わりました。お世話になりました旭川市の関係者の皆様に感謝致します。

▲井上靖記念館では井上靖さんのご長女、浦城幾世さんのお出迎えをうけ直々に館内をご案内頂きました。



▲三浦綾子記念文学館では本館隣に開館20周年を記念した分館が建設中でした。参加者は記念館を見学後、三々五々見本林の散策を楽しみました。

●聖イグナチオ教会・迎賓館を見学してきました

昨年4月19日に13名の参加を得て行いました。聖イグナチオ教会では奉仕の女性に内部を案内していただきました。次に迎賓館に移動。迎賓館入口の予約者通路をスムーズに抜け、持ち物検査も全員パス。建物の内部では、天皇皇后両陛下と各国元首、あるいは各国首脳との会食、懇談の間など重要な場所を通り抜け、建物の外へ。国宝級の噴水があるという主庭園を見学しました。最後に中華料理を堪能しお開きに。天気に恵まれ楽しい一日でした。



▲迎賓館は本館を含む付属設備や主庭噴水池、階段などが国宝に指定されており館内の撮影は禁止されています。館内を見学後建物の正面前庭に出て参加者一同で記念写真を撮りました。

●ふるさと納税秋祭2018に参加の旭川市を応援

ふるさと納税サイト「ふさとふる」が主催する一日限定のふるさと納税PRイベントが昨年10月13日に三子玉川ライズで開催されました。旭川市がPRのために参加するのことで応援に駆けつけました。



▲当日の旭川市ブースにて。旭川市関係者の方と東京旭川会役員と。

